

1. 小川町の交差点にある、「顔の Y シャツ」の主人について

写真は「顔の Y シャツ」（「さらばかんだキャンパス」に掲載）です。右隣が ずっと下に書いた①の武崎ビル跡に昭和 50～60 年頃に建て直した中村ビルです。先々代が武崎さんで、婿養子の中村さんが継いだ。友人の大庭君は先代中村さんの長女の息子(孫)。

「顔の Y シャツ」は、数少ない「あつらえ Y シャツの専門店」です。有名店ですから、小川町辺りで住んだ人なら誰でも知っていますよ。私の住んでいた日米商会から 20m も離れていません。

昭和 40 年頃までの事しか判りませんが、戦後ご主人だった方は、多分亡くなられていると思いますが、両親も私も良く知っています。看板の絵にそっくりな「坊主頭で柔和な顔」の方でした。代が変わってれば、私の親父は知っている筈ですが、私は知りません。跡継ぎの奥様になっていると思いますが、「みえちゃん」と呼んでいて、私より 2 歳年上の一人娘でしたが、おとなしくて、やさしかったので大変に仲良しで、よく遊びに行きました。苗字は カジ (加治 ?)さんでした。約 60 年位前の事なので、向こうさんが覚えているかは ? です。

2. 小川町校舎と「松本停」の女将松本フミさんに関して

最初の自己所有の木造の 3 階建ての校舎(大正 3 年)、とは錦町 3 丁目の錦城商業学校校舎を取得してのことでしたが、戦後も錦町 3 丁目には錦城商業高等学校の鉄筋コンクリート建てが有りましたので。どうも、小川町から錦町界隈の昔の学校はあちらこちら、互いに移転を繰り返し合っていたと思われます。電機学校・中央大学・錦城商業学校校舎等

「学校法人東京電機大学創立100周年記念小誌」P11 に大正 11 年、本校最初の鉄筋校舎が建設され、大正 12 年 9 月 1 日、関東大震災は鉄筋校舎を除く全校舎を瓦礫に変えてしまった。2 ヶ月後の 11 月 5 日には仮校舎での授業を再開した。翌年には、生徒数が急増し、校舎の増築を行った。同年には、「NHK に 4 ヶ月先駆けて、ラジオ実験放送」が行われた。

大震災後に起こった様々な騒動の原因が情報不足の流言蜚語だったので、情報伝達の手段としてラジオ放送の必要を感じた政府の命令を受け実験放送を行ったと、何かで読みました。

同 P11 の写真、実験放送の地上アンテナとその後ろの「白い校舎」、更にその後ろに見える、

① 屋上にアンテナのあるビルそれも、やはり校舎だったのか ? ですが、当時、他にアンテナが有る筈が無いのでまず間違いは無いと思います。私はそのビルに、見覚えがあるのですよ。

そこは、戦後に私が住んだ小川町一丁目、日米商会の隣の焼けビルだった武崎ビルらしいのです、友達が住んでいたビルだったので、よく遊んでました。

本で昭和 7 年頃の小川町交差点写真の武崎ビルとも見比べたのですが、そっくりで同じに見えます。これが本校最初の鉄筋校舎ではなかったのかな ???

但し、当時のビルは似た建物が多いので確かなことはわかりません。

②「白い校舎」の場所の戦後は、焼け跡に米軍から貰ったカマボコ兵舎を運んだ小川町 1 丁目の同じ区画の、初代神田キリス教診療所仮施設の位置と思います。前に書いた、錦町 1 丁目の焼け跡に建った平屋の神田キリスト教診療所(私達の頃に所長だった手塚博士が電大校医でした) が建つ前の施設す。

そのどちらの施設にも住んでいましたが、オーナーではと思われたのは、外人かと思うほど大柄で品の良い女性で、年は私の両親よりもずっと上でした。

周りの住民達からは尊敬されていたようで、フミさんと丁寧と呼ばれていました。苗字は覚えていません。この女性がなんとも気になっています。

普通の女性が米軍からカマボコ兵舎を貰えたなんて有り得なかった筈ですよね。後押しする何らかの強い力が得られたからに他ならないと思います。

年齢的にも、加賀まりこ が言う「祖母は、松本亭の女将」とも合致しているし。

後に移った錦町1丁目の施設の土地も、あの辺りの土地が松本亭に関連する所有地だったと考えると納得できるし。

松本亭の女将、松本フミと関係があるのではないかな ??? と思えるのですよ。

但し、彼女は やはり孫と思われる、加賀まりこ よりも 1 歳下の 戸田文子さんなる 女の子（こちらも活発な超美人）を連れていたので、この辺りの関係が判らないので別人かもしれませんが。

①②共に私の推測で、確証はありませんので、ご了解の程お願いします。